



# 館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 4 月 1 日 (火)

発行 館長 加藤 智 一

## 令和 7 年度開始にあたっての挨拶

## 4 月 1 日ですが、嘘ではありません



昨年度当初からの懸案でありました、“コロナ禍前の状態まで集客数を戻す”を目標に、金曜日、土曜日に開催するワークショップ（8 回）のチャレンジコーナーでの実施や、各種企画事業（19 回）、協賛事業（17 回）、自主事業（3 回）の他、団体工作（18 回）の復活など通常業務の他に、1 月 13 日からは山形工業高校建築科の皆様にご協力いただいた「産業科学館魅力 UP 大作戦」の展示を開始し、教室黒板風の背景アートに加え、仮装して記念写真が撮れるフォトフレームの他、ビー玉を利用した手作りの迷路盤とコリントゲームの設置、3 月 21 日から 23 日の期間限定イベントとして実施した「COSMO BALLOON VR 気球搭乗体験」、そして産業科学館利用者アンケートの結果および産業科学館運営協議会の席上でもご指摘いただきました”宇宙に関する内容の充実”を図るために、7 月 1 日から「日本の宇宙科学の歴史を学ぼう」シリーズのパネル展示、2 月 21 日からは 4 階「いろ色 3 つくす」の空きスペースを利用して、「おしえてジャクマ! ビデオシリーズ」の「よくわかるロケット編」と「よくわかる人工衛星・探索機編」の上映など、皆様のご協力の下、今まで進めてまいりましたが、結果といたしまして、令和 6 年度の利用者数 214,815 名、開館時からの延べ利用者数 6,510,866 名を達成いたしました。少子高齢化の時代ですので、ほぼコロナ禍前の状態に戻ったと言っても良いのではないのでしょうか。

さて、いよいよここからがスタートとなります。時代の要求に答える科学館の新しい姿を具現化していかなければならないと思っております。今までは、どちらかと言えば小学生とその保護者をターゲットにしたイベントや工作、ワークショップであったものを例えば「大人のための」とか「小学 2 年生以下の」とか今まで取りこぼしてきた世代へのアプローチもこれからは必要になってくると考えております。集客数だけが全てではありませんが、変わっていく家族の形や、地域の実情を踏まえた運営に、微力ながら尽くしていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

朝日新聞 2025. 4. 1 山形地方版によりますと、山形市の夏の風物詩「山形花笠まつり」、その PR を担う「ミス花笠」の募集が始まりまして、ちょっとビックリ。これまで女性に限っていた応募条件を男性も OK とした昨年に続き、今年からは「未婚」の条件も外すことになったとか。もはや完全に「ミス」ではないと思うのですが、名称の変更や女性用の衣装はそのままに、あくまで固有名詞として「ミス花笠」は使い続けるのだそうです。実際のところ昨年は、2 名、男性の応募があったということですから、今年はずっと、既婚者の応募もあるのでしょうか。



## 花粉、黄砂・・・春が来た

山形新聞 2025. 3. 31 より

問題です。次の物質を大きいものから順に答えなさい。①スギ花粉 ②髪の毛の断面 ③黄砂 はたして答えは、②髪の毛>①スギ花粉>③黄砂となります。花粉の直径は 1 粒あたり 0.02~0.05mm であるのに対し、黄砂の直径は、0.01mm より小さい石（鉱物）です。現在「花粉症」特に「スギ花粉症」の患者は国民の 1/3 に及ぶと言われ、症状が重くなって働きにくくなるといった経済的な損失は 1 日あたり 2 千億円を超えるという試算も出されています。

黄砂も洗濯物が汚れたり、視界不良で交通事故の原因となったり、花粉症のように、目のかゆみや鼻水などのアレルギー症状の悪化との関連も報告されており、私どもニュータイプには苦しい季節が続きます。